


太陽エネルギーで走る電動モビリティを活用した離島活性化の取組

取組開始時期	令和3年4月	取組の カテゴリー	地域活性化	応募部門 (○を付ける)		PF会員間連携部門	○	一般部門
---------------	--------	----------------------	-------	-------------------------	--	------------------	---	-------------

1. 団体名	松山市	2. 連携先 の団体	◎三井住友海上火災保険株式会社、◎MS&ADインターリスク総研株式会社 社会福祉法人 島寿会、NPO法人 ふれ愛ランド中島					
---------------	-----	-----------------------	--	--	--	--	--	--

3. 取組 目的	環境と人にやさしい乗り物の活用で温室効果ガスを削減するとともに、高齢者の生きがい 創出や観光客の移動手手段の確保など島の活性化を後押しする			4. 関連する ゴール				
---------------------	--	--	--	------------------------	---	--	--	--

5. 取組経緯

令和2年7月に松山市が発起人となり、SDGsをフックとした地域課題解決のための官民連携プラットフォーム「松山市SDGs推進協議会」を設立。
松山市沖に浮かぶ離島「中島」の人口減少や少子高齢化、過疎化、災害時のエネルギー供給の脆弱性など、複数の地域課題を解決するためのプロジェクトとして「スマートアイランドモデル分科会」を設置し、協議会会員18団体と協働している。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

離島中島の地域課題を解決する官民連携プロジェクトチームを結成。行政が電動モビリティを調達、保険会社が安全性を調査、地域の社会福祉法人が運行を担い、温室効果ガスの削減と移動手手段の確保に向け実証中。

画像（会員投票の際のサムネイル）



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

太陽の恵み豊かな「中島」で発電した再エネを活用したグリーンスクーモビリティの実証を軸に、脱炭素化と高齢者にも優しい交通手段を確保する。また、島の魅力を体感できるコンテンツとリンクさせ、関係人口の増加によるにぎわいを創出するなど、経済・社会・環境の3側面を意識した持続可能な地域社会の実現を目指している。

ステークホルダーとの連携

大学教授をコーディネーターに分科会18メンバーで島の持続可能性を検討。保険会社がリスクアセスメントを実施し、地域の社会福祉法人が高齢者のお出掛け支援を行っている。また、宿泊施設を運営するNPO法人が観光客への実証を行うほか、防災訓練や中学校等でも試乗体験を実施するなど、あらゆる地域住民を巻き込んだ取組となっている。

モデル性・波及性

本取組は、島内外の様々なステークホルダーが連携して各自の強みを生かしたソリューションを提供し、住民と一緒に持続可能な地域を目指している。人口減少や高齢化、移動手手段の確保という課題は島しょ部や過疎地域が抱える共通の課題であり、地域の特色を生かした事例として島のPRとともに情報発信していく。

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

分科会メンバーや地域団体など、各ステークホルダーのノウハウや人材を最大限活用し地域課題の解決に取り組む

松山市SDGs推進協議会

(会員数：186団体 R3.10.1現在)

スマートアイランドモデル分科会 (18団体)

松山市 …車両の貸出、太陽光電源の提供

三井住友海上火災保険(株)

(福)島寿会 …特別養護老人ホーム

「姫ヶ浜荘」での車両の活用

ほか 大学や金融機関、旅行会社など18団体で構成

再エネの地産地消やEVの普及、自然の魅力を活かしたサステナブルツーリズムの推進で、環境面では「豊かな自然環境との共生」、社会面では「快適で安全安心な暮らし」、経済面では「島のにぎわい」を達成するなど持続可能なスマートアイランドを目指す

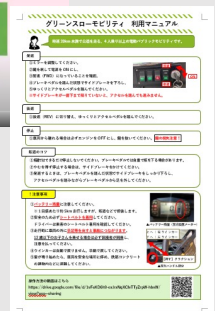
MS&ADインターリスク総研(株)

…リスクアセスメントの実施

島民 来島者
・TVや新聞、HP等

作成

マニュアルや
運転講習動画
を作成し、安全安心な走行環境を整備・運用の負担減



活用先の展開

NPO法人 ふれ愛ランド中島 …宿泊施設「ほしふるテラス姫ヶ浜」で活用

中島中学校 …総合学習の時間に活用し中島の自然の魅力や環境問題について学ぶ

島内イベント …島内の防災訓練で活用しSDGsの意義や防災面での有用性を伝える

→累計乗車数：370人(令和3年8月末時点)

今後の方向性

- PPAを活用するなど太陽光を中心とした再生可能エネルギーを拡大させるとともに、島民や島内事業者への電動モビリティの普及を図る。
- 再エネの地産地消となる「創る・貯める・賢く使う」仕組みを拡大させ、島の魅力と合わせたコンテンツを造成し、サステナブルツーリズムとして島外からの人を呼び込むなど関係人口の増加を図る。
- 将来的にグリスロは地域で自立して運行できる仕組みとし、同様の課題を抱える他の島しょ部や過疎地域への展開を検討する。

＜島のお年寄りの声＞

- ・普段行けない遠い場所まで行けて楽しい。
- ・足が不自由でも皆と一緒にのお出掛けできる。

＜観光客の声＞

- ・開放的で島の景色が見れて楽しい。
- ・このような乗り物が島にあれば良い。

＜イベント・防災訓練参加者の声＞

- ・エコなうえに停電時に役立つことが分かった。

＜運転手の声＞

- ・運転しやすく、地域の方との交流機会も増えた